

『Tsuku-場 第19回イブニング・レクチャー』アンケート集計結果

◆多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。簡単ではありますがアンケートを以下のようにまとめました。

- ・開催日：2025年3月7日（金）19:00～20:30
- ・場所：オンライン開催
- ・内容：育休を取得した男性の心理と上司の視点 ——生々しい語りを中心に
- ・講演者：尾野 裕美 氏（筑波大学人間系准教授）

◆参加状況

申し込み人数	参加者	アンケート回収数
108	80	57

◆満足度について

とても高い	高い	普通	低い	とても低い	未記入	計
31	24	1	1	0	0	57

◆アンケートに書かれたコメントの中からいくつか抜粋しました。

- ・自分自身が育休取得しているため、男性であっても同じように感じるのだなと納得感を持って聞きました。
- ・少子化の課題を少しでも解決することにつながる可能性のある貴重な研究だと思います。
- ・上司の生々しい本音が聞けたことが大変、勉強になりました。
- ・男性育休は、日本の職場風土や、労務環境上の課題を生々しく映し出すものだな、と感じました。
- ・実際に育休取得者本人と家族、同僚、上司がそれぞれ育休期間中に内省する時間を持つことで新たなキャリア意識の芽生えや価値観などが育まれることが印象に残った。
- ・育休取得は男女関係なく本当に人と組織が相互に理解・協力をし、お互いに学ぶ場面が提供された良い機会だと思えないと、何かしら戸惑いが発生するものであることが実感できました。
- ・育児休暇をとった本人の心理の変化プロセスはもちろんだが、マネジメントする上司の変化プロセスが興味深かった。
- ・男性育休がさらに一般化していく速度が速まる時代の転換点に立っている気が致します。
- ・育休前、育休中、復職後と、育休取得者の心理が変化していく流れが具体的に学べて非常に参考になりました。
- ・社員や労働組合が企業に要請するアクションを起こして、提案を受けた企業側は誠意を持って対応する姿勢を示していくのが望ましいと感じた。お互いの考えに相違はあっても双方でしっかり議論をして、WLB推進と企業の成長につながる道筋をつけた上で整備を進める必要性があるのではないかなと思う。
- ・昨年、自分の直属の男性上司が育休を取得したのですが、その時の上司の気持ちの葛藤が想像できました。
- ・育児休暇の取得の取りにくさは良く目にする機会はあったが、それを受け入れる上司側の葛藤や一方で認めていきたいという心理的な状況などは本日の講義での新しい発見でした。